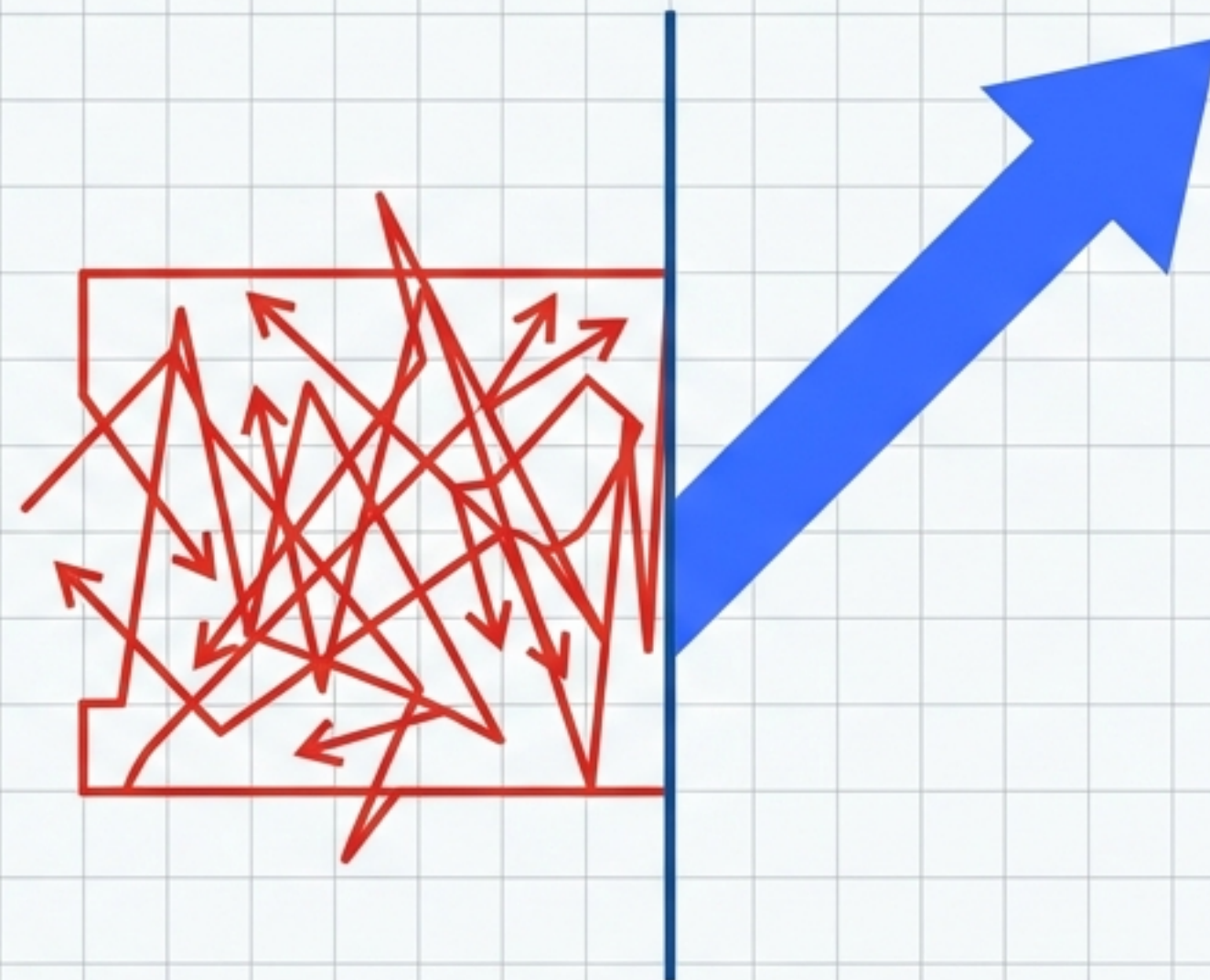


レンジトレードは 「罠」だらけ？

なぜ「安く買って高く売る」
初心者は負け続けるのか



FXを始めたばかりの頃、誰もが一度は夢見る「レンジトレード」。
しかし、そこには多くのトレーダーがハマる落とし穴があります。
今日話すのは、その「罠」の正体と、そこから抜け出すためのシンプルな解決策です。

オシレーターの甘い誘惑

- 1. 魅力的なサイン

RSIやストキャスティクスが示す「買われすぎ!」「売られすぎ!」の表示。これを見れば相場を攻略できそうに見えます。

- 2. よくある誤解

「上で売って、下で買う」は言葉にするのは簡単ですが、実践するのは至難の業です。

- 3. 現実

実際にやってみると、なぜか全然うまくいかない……その理由を解明しましょう。

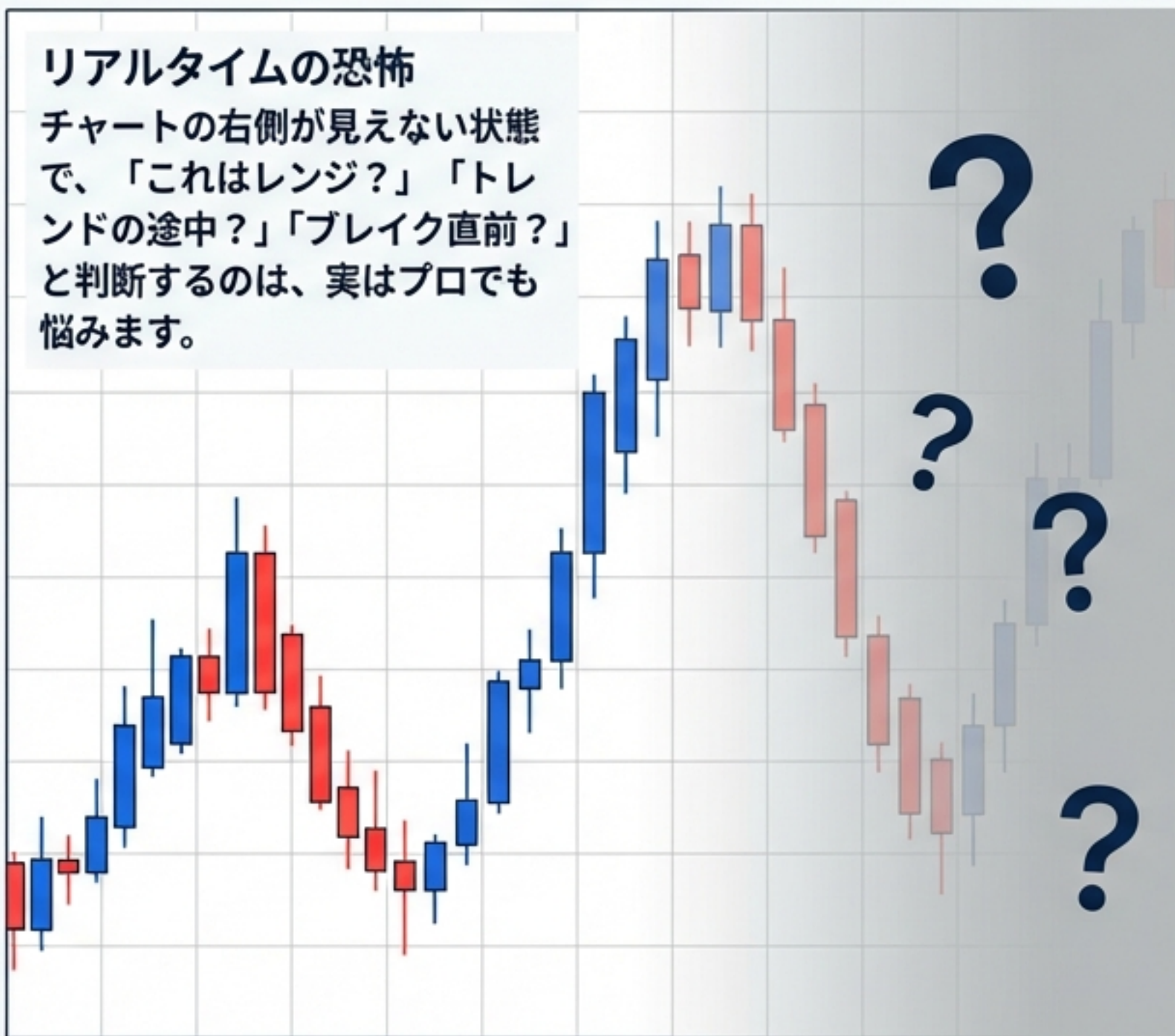


レンジは「後から」しか分らない

リアルタイム / Real-time

リアルタイムの恐怖

チャートの右側が見えない状態で、「これはレンジ?」「トレンドの途中?」「ブレイク直前?」と判断するのは、実はプロでも悩めます。



振り返り / Hindsight

最大の落とし穴

終わったチャートを見れば「ここで売ればよかった」と分かりますが、動いている相場ではそれは不可能です。これが、レンジトレードが「見た目よりずっと難しい」根本的な理由です。



「買われすぎ」なのに、 なぜ上がる？

- ダマシのメカニズム

オシレーターが「買われすぎ (RSI 70超え)」を示唆しても、強いトレンドが発生している時は、価格はそのまま上昇し続けます。

- 残酷な真実

手法が悪いわけではありません。
「そもそもレンジ相場ではなかった」
のです。

しかし、それに気づく頃には、
含み損はすでに膨らんでいます。

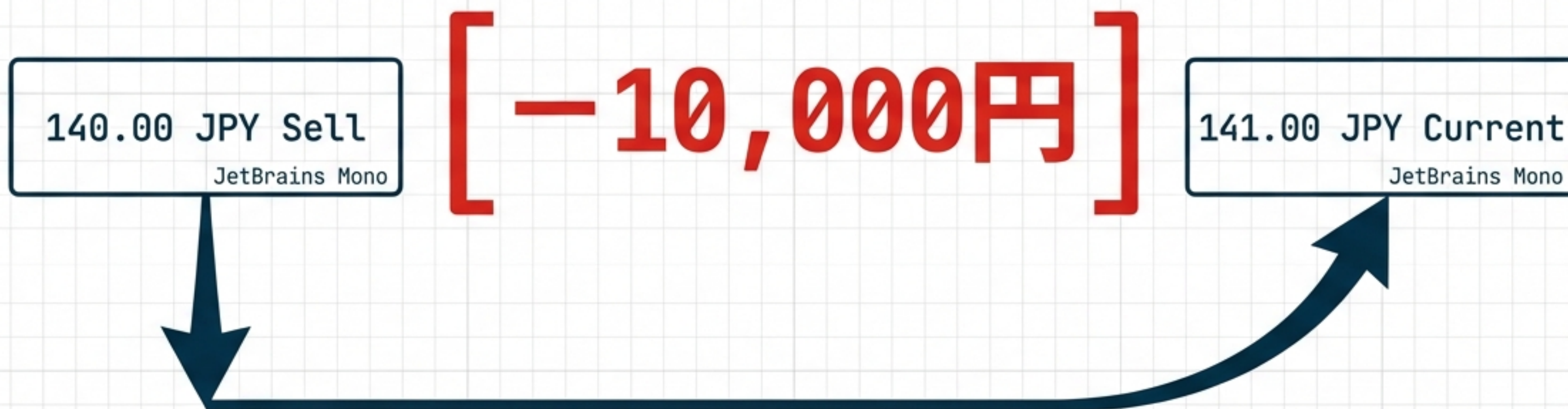


1回の判断ミスが招く「1万円」の損失

シミュレーション: ドル円 140.00円で「買われすぎ」と判断し、1万通貨で「売り」エントリー。

しかし、トレンドは続き 141.00円まで上昇。

たった1円の逆行で



苦しい決断: 損切りラインをどこに置きますか? 近すぎれば刈られ、遠すぎれば大怪我をします。
この判断は初心者にはあまりに過酷です。

ヒゲに騙されてはいけない

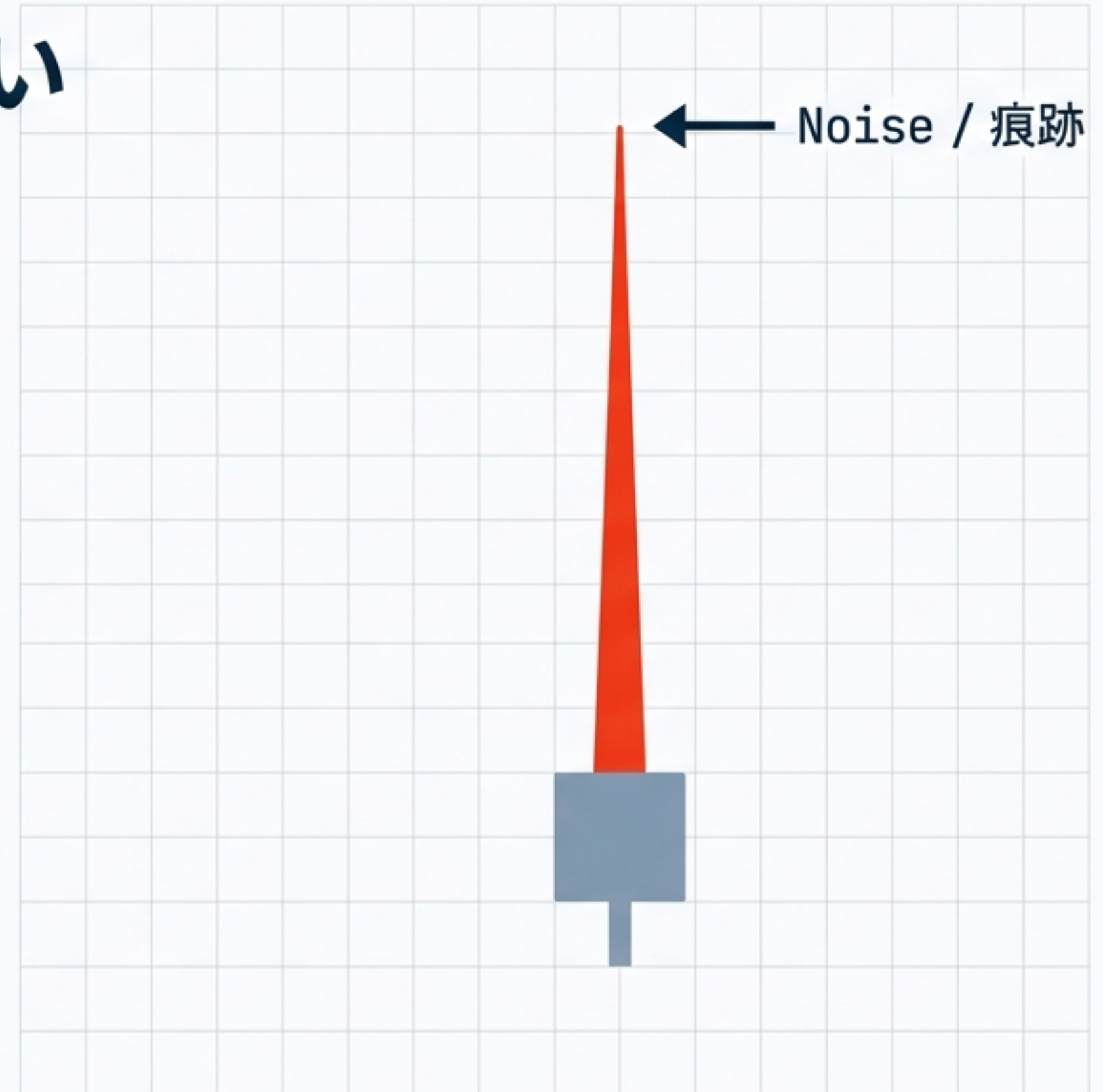
よくある勘違い

「上ヒゲが出た！ 反転のサインだ！」と飛びついていませんか？

ヒゲの正体

それは「一度その価格を試しに行った」
それは「一度その価格を試しに行った」
という単なる痕跡にすぎません。

ヒゲだけで「方向が決まった」と判断するのは、時期尚早であり危険です。



「終値」こそが唯一の答え

確定した事実

ローソク足の高値・安値は途中経過です。
最も重要なのは「最終的にどこで確定したか（終値）」です。

市場の合意

ダウ理論が終値を重視するのは、そこに市場参加者の「最終的な合意」が現れるからです。

ヒゲの高値更新はノイズですが、終値での更新は「事実」です。



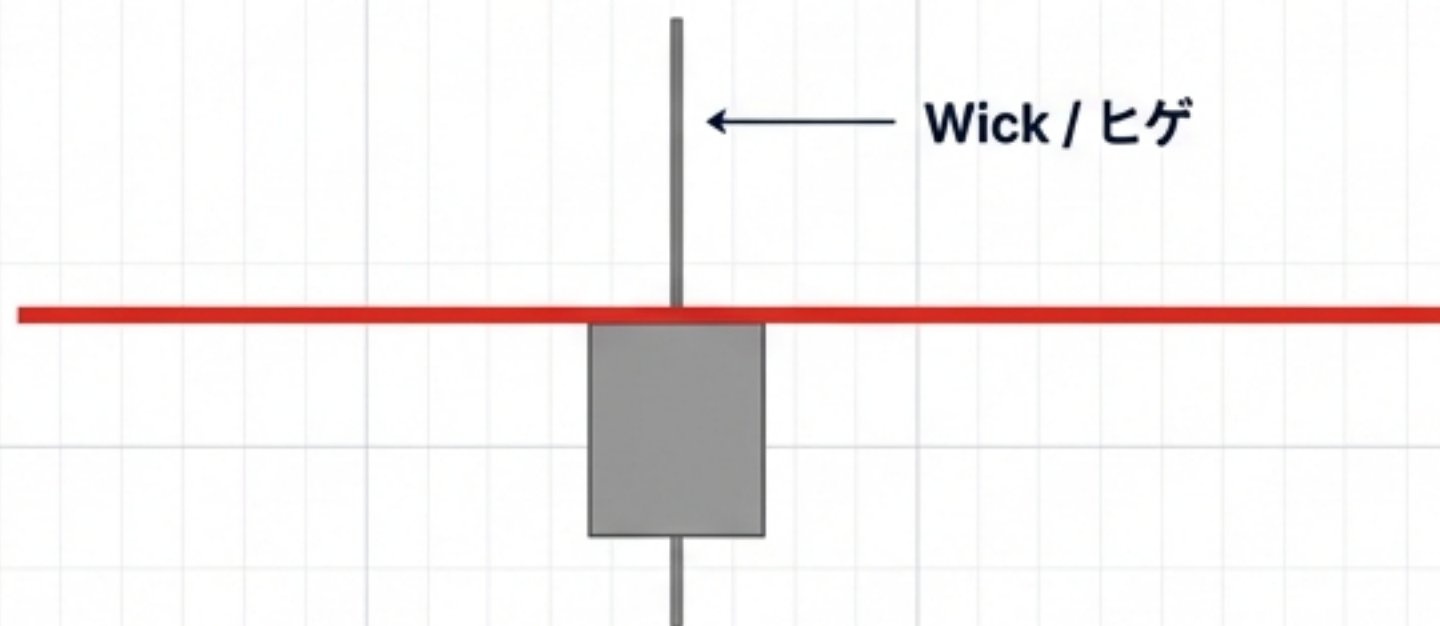
ブレイクアウトの本当の意味

単なるテクニックではありません。意識された高値を「終値」で抜けるということは、市場で需給の**変化**が起きたことを意味します。

1. 逆張り勢の損切り（買い決済）
2. 新規の順張り参入（買い注文）

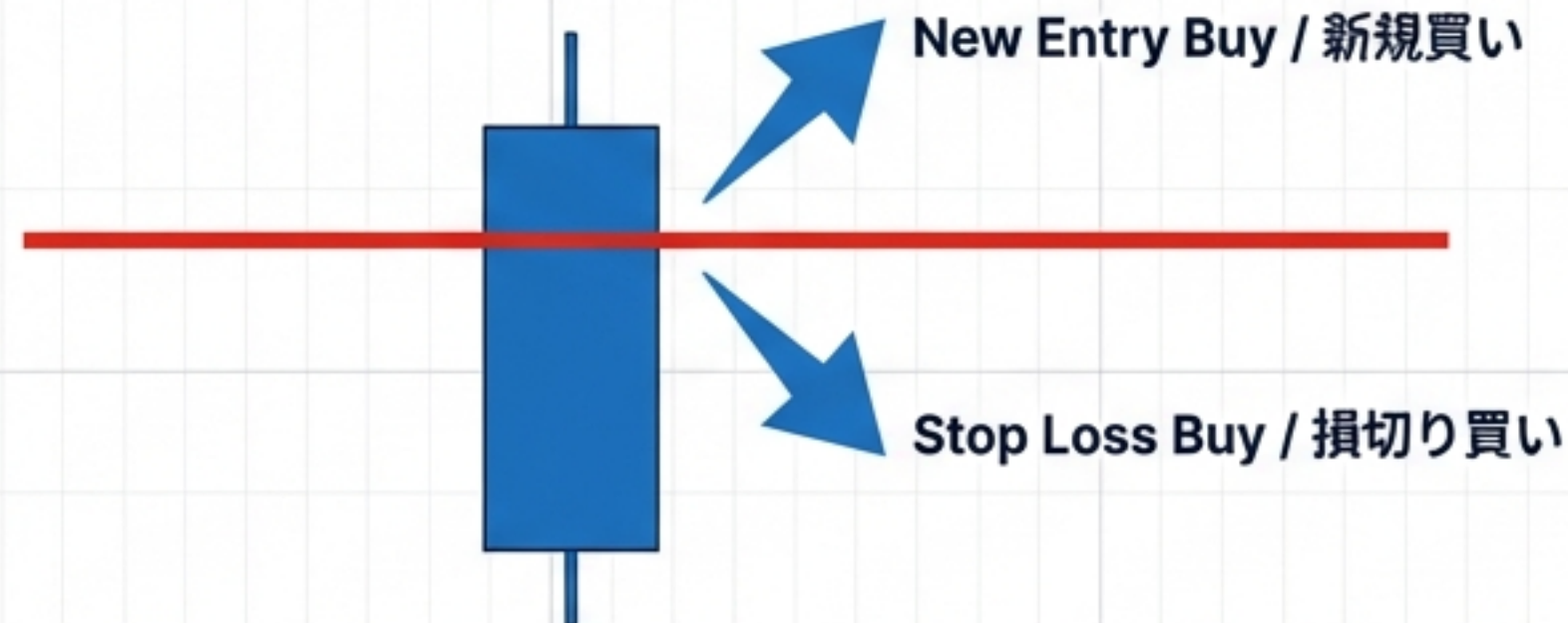
この2つの力が働くことで、トレンドは加速します。これはAI時代でも変わらない原理原則です。

A



False Break (No Supply Shift)

B

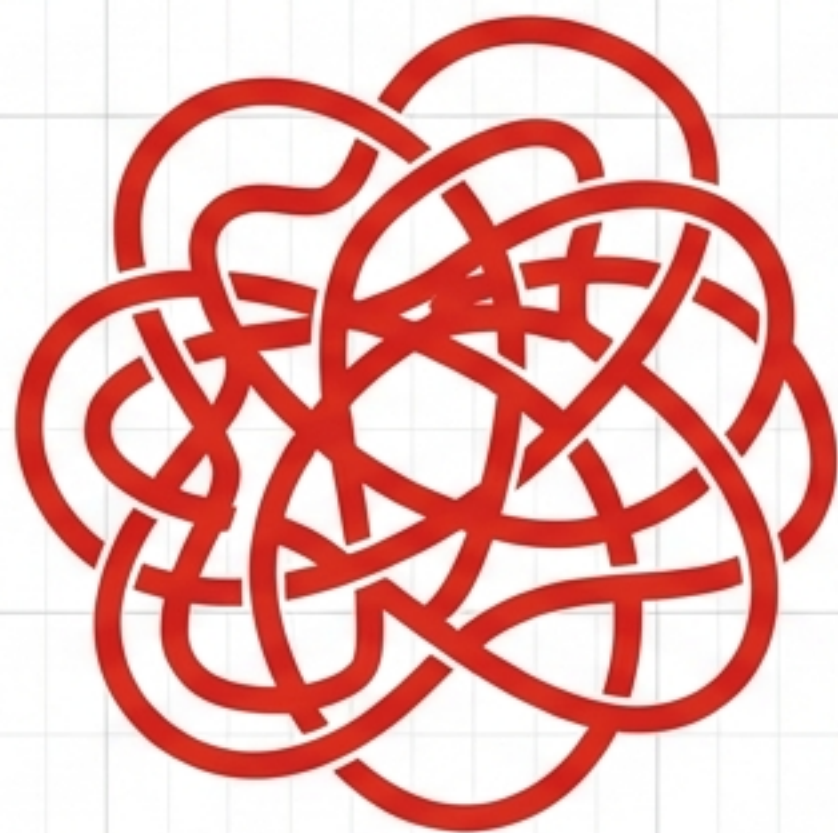


True Break (Demand > Supply)

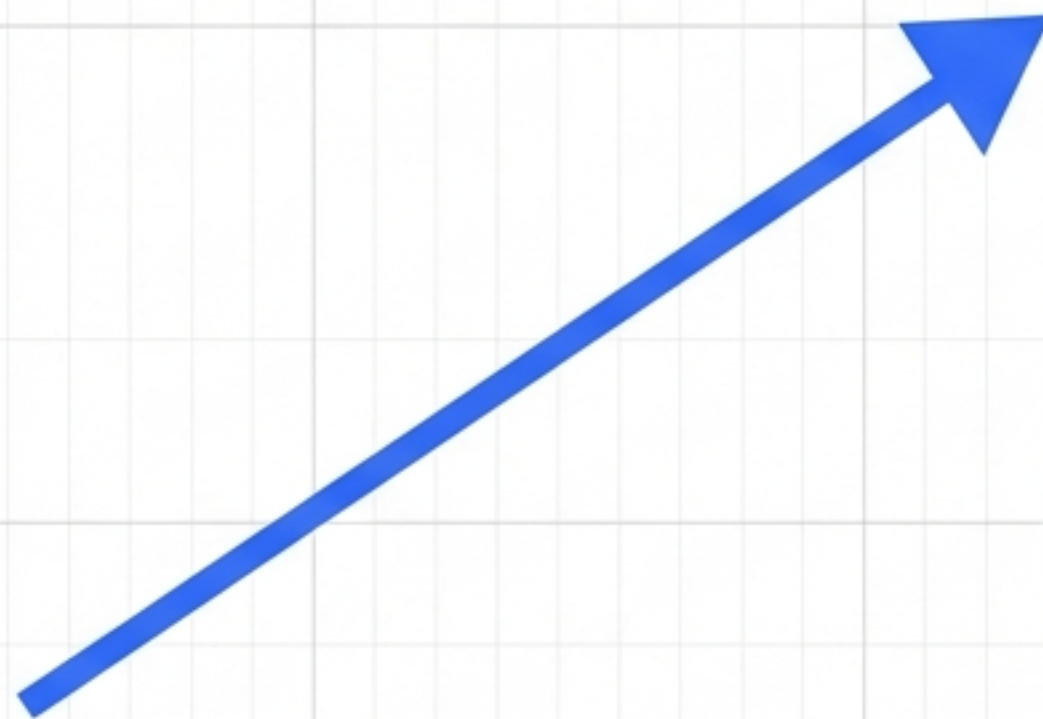
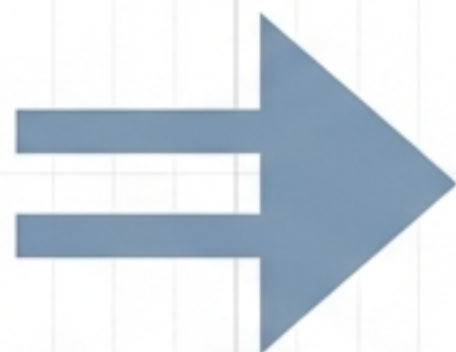
トレンドフォローが「楽」な理由

なぜ初心者にとrendフォロー（順張り）を勧めるのか？

それは、勝率や利益率の話以前に、「判断すべき回数」が圧倒的に少ないからです。
脳のメモリを消費せず、迷いを減らすことが、トレードの安定につながります。



COMPLEX / 複雑 (Range)



SIMPLE / 単純 (Trend)

判断の数を比べてみよう

Range Trading (複雑)

- 今は本当にレンジか？
- ここが上限・下限か？
- ヒゲは本物の反転サインか？
- 損切りはどこに置くか？
- まだ反転しないかも...待つべき？

Trend Following (シンプル)

- 上位足で方向が出ているか？
- 終値で高値・安値を更新しているか？
- これだけ！

シンプルなトレンド判定法

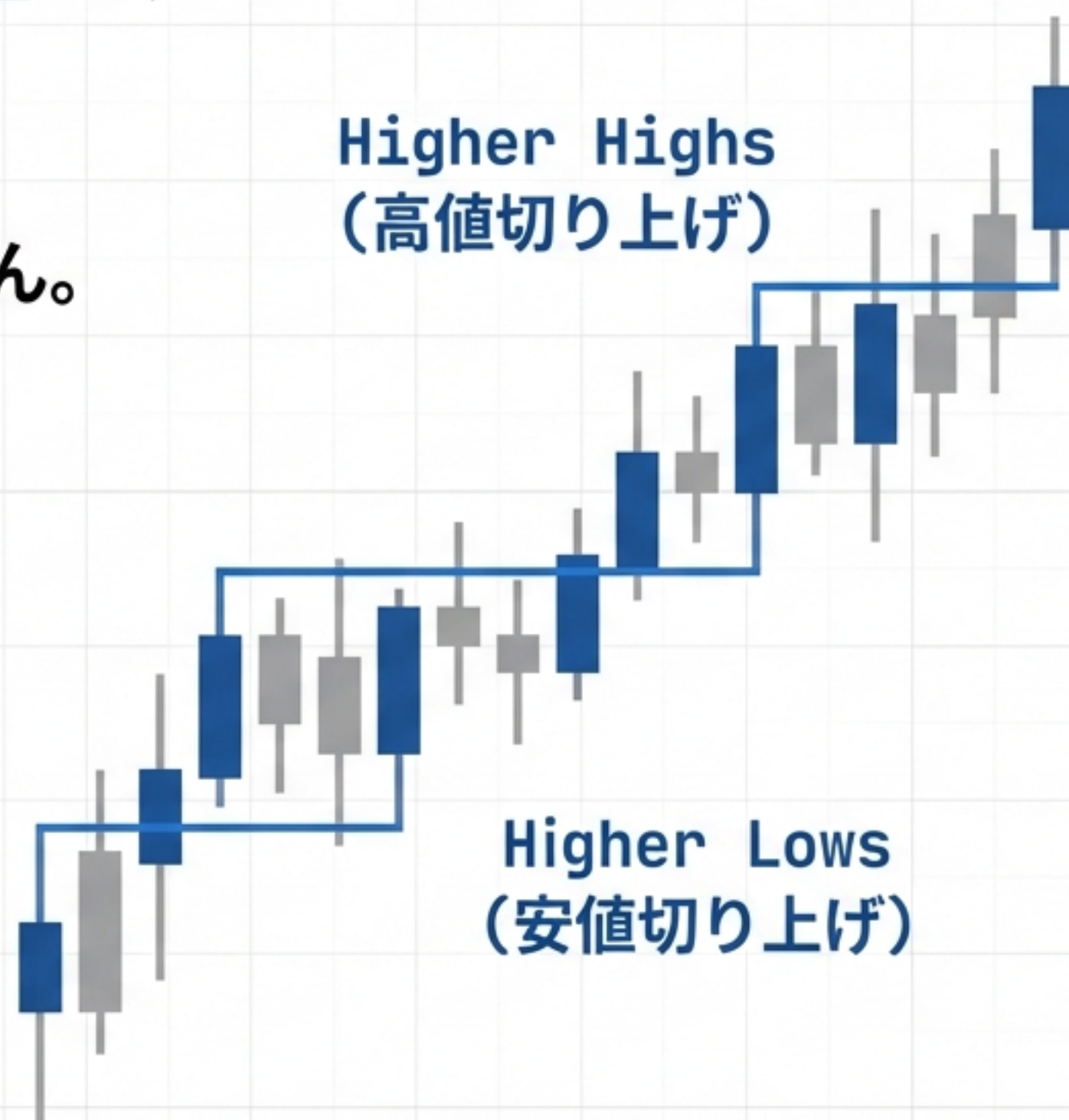
見るべきポイント

レンジの上限・下限を予想する必要はありません。
「流れがあるかどうか」だけを見てください。

ダウ理論の基本

- ・ 終値ベースで構造が崩れていないか？
- ・ 高値・安値の更新が続いているか？

ヒゲやフェイクに一喜一憂せず、
どっしりと構えることができます。



「難しいことをしない」 勇気を持つ

レンジトレードや逆張りが「悪」ではありません。しかし、それは相場環境を正確に見極めるスキルを持った上級者向けの技術です。

初心者や中級者が、あえて修羅の道を選ぶ必要はありません。

賢い選択：難しい相場（レンジ）は捨てて、流れが出ている簡単な相場だけを丁寧に拾う。この「割り切り」が重要です。



私の失敗談と気づき

過去の私



オシレーター大好きマンでした。
「RSI 80超えて売り！」と自信満々にエントリーし、幾度となくロスカットされました。

「なぜ自分だけ上手くいかないんだ」と焦りを感じていました。

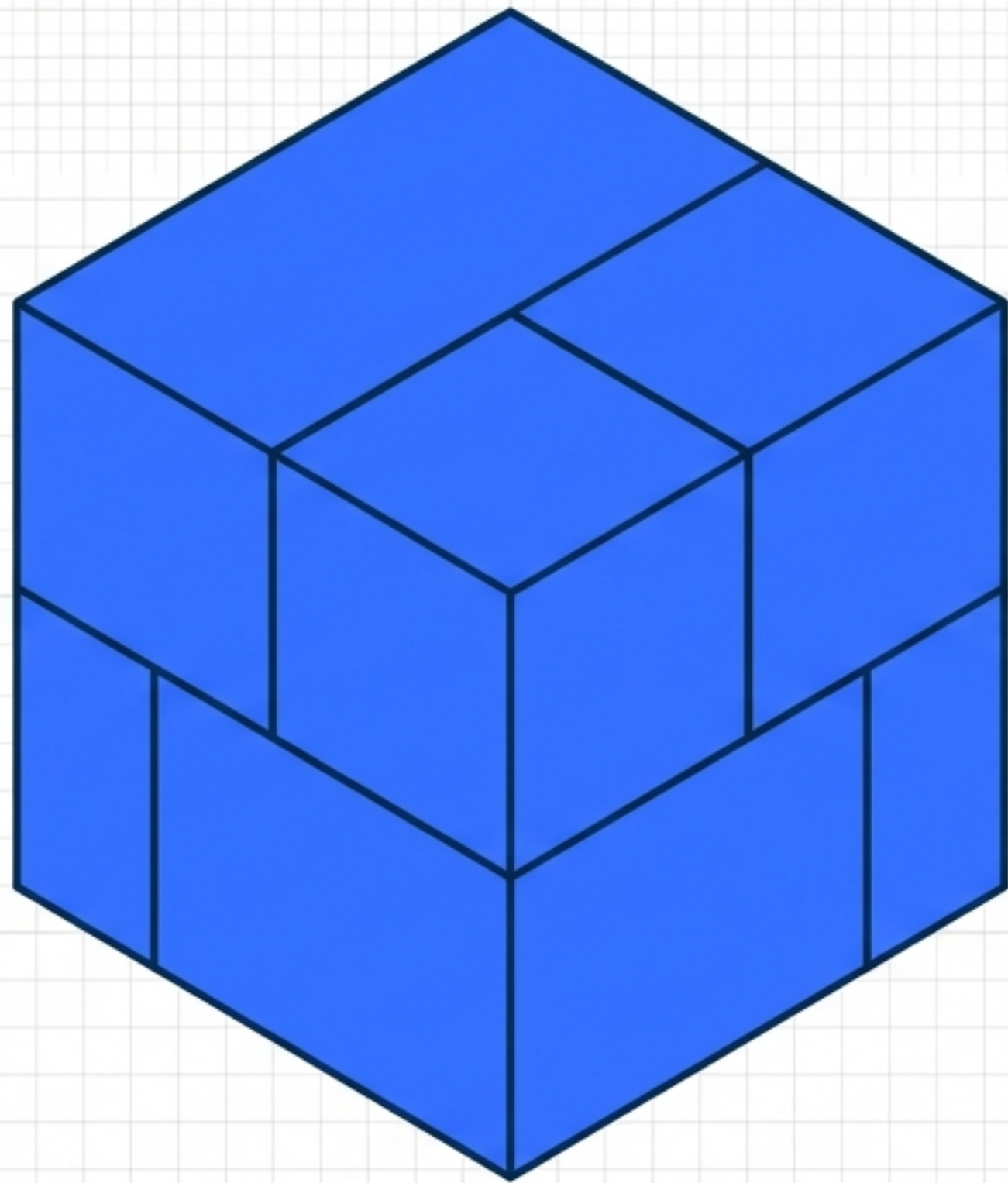


現在の私



トレンドフォローの構造を理解してから、トレードが劇的に楽になりました。

「無理に難しい相場で戦わなくていい」と気づいた時、心が軽くなったのです。



SwingSniper的アプローチ

私が提唱するのは、派手さはないけれど、
どんな相場でも応用が効く「土台」作りです。

スイング構造や高値・安値の役割（原理原則）
を理解すること。

この基礎があれば、将来どんな新しい手法に
出会っても「あ、これはあの原則の応用だ」と
本質が見えるようになります。

今日のまとめ



1. レンジトレードは避ける：判断が多く、難易度が高すぎます。
2. オシレーターを過信しない：逆張りは初心者向きではありません。
3. 終値を見る：ヒゲではなく、確定した「終値」で構造を判断しましょう。
4. テレンドフォローを選ぶ：判断が少なく、迷いが消えます。

「焦らず、自分のペースで。難しい相場はスルーして、
確実な波だけを捉えていきましょう。」